

高 等 学 校

平成 2 6 年度

教育研究員研究報告書

教育課題

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
VI	研究の成果	23
VII	今後の課題	24

研究主題	「言語活動の充実に向けた教育活動の工夫」
------	----------------------

I 研究主題設定の理由

1 社会の現状

平成 24 年 OECD（経済協力開発機構）の「日本再生のための政策 OECD の提言」では、「日本は特に『生徒の学習到達度調査』で素晴らしい成績を収めている。しかし、限られた資源、急速な高齢化そして経済の変化といった問題に直面し、教育の成果をさらに向上させる必要がある。」と示されている。また、高等学校学習指導要領においても、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育み、「確かな学力」として、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことが示されている。特に、言語活動の充実に関しては、各教科等の目標と関連付けた効果的な指導を行うことが重要である。

さらに、国内外での学力調査の結果からは、我が国の子供達は、特に読解力や知識・技能を実生活の場面に活用する力などに課題があり、思考力・判断力・表現力等の一層の育成が必要とされているという現状がある。

2 生徒の現状

平成 21 年 PISA（生徒の学習到達度調査）には、「子供達は必要な情報を見つけ出し、取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結びつけたりすることが苦手である」ことが示されている。

子供達は、携帯電話やインターネットの普及でネットツールに頼り、人間関係の構築方法に変化が生じている。対面でのコミュニケーションを取り結ぶことを不得意とする状況があることから、自分の考えを、自分の言葉で表現することが求められている。また、授業では、講義型のインプット型式の授業が多く、小・中学校で多く行われている課題解決学習が、高校では、系統的に行われていないのが、実状である。そのため、次期学習指導要領のキーワードである「アクティブラーニング」は、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク等の学習が求められ、指導方法や指導体制の工夫と改善が必要である。

平成 25 年度文部科学省の人材強化のための教育戦略では、「グローバル基礎力の習得国際的視野、課題発見・解決力、コミュニケーション力、クリティカルシンキング力、情報取捨選択力、社会貢献意識などを育成」などが挙げられている。

3 主題設定の理由

現在の生徒の現状を踏まえ、平成 26 年度の高等学校教育課題部会テーマは「言語活動の充実に向けた教育活動の工夫」とした。

これからの時代を、自立した人間として多様な他者と協働しながら、たくましく生きていく

力を育んでいくために、必要な資質・能力をどのように捉えるか。また、何事にも主体的に取り組むための意欲や、他者と協働するためにコミュニケーション能力をどのように育むか等について、協議を深めた。この課題を解決するためには、言語活動を充実させ、各教科等の目標と関連付けながら効果的に学校全体で指導する必要がある、一人一人の個に応じた指導の充実を図ることを研究のテーマとした。当部会では、言語活動を充実させるための手法として様々な場面で、プレゼンテーションの行い方について、取り上げることとした。

具体的には、

- ①授業における指導目標が美術の授業で、プレゼンテーションを行うことにより、達成できるかを検証した。
- ②学校設定科目（児童文学）で学んだ、プレゼンテーションの行い方が、他の教科の授業においても、教育活動、書評合戦に、どのように活用していくのかを指導した。
- ③学校行事で行われている「ブックトーク」（自分で読んで『面白い、他人に薦めたい』と思った本を、一人3分程度で紹介する）において、プレゼンテーションの行い方を通して、本の魅力を相手に伝えることを指導した。

以上、三つの実践研究を行い検証することとした。

Ⅱ 研究の視点

高校部会教育課題部会のテーマは、「言語活動の充実に向けた教育活動の工夫」であり、次の二つの視点を重視して、研究及び検証を行った。

1 課題を把握し、自分の言葉で表現する

課題を把握し、自分の言葉で表現することが重要であり、解決に導くために論理的思考として、指導者が生徒自身に課題に「気付く」言葉がけを通して、思考力・判断力・表現力等育成を図った。

2 評価を行い、主体的に取り組ませる

生徒が与えられた課題に対して行ったプレゼンテーションについて、自己評価と相互評価を行い、評価結果をフィードバックし、より効果的なプレゼンテーションができるよう、主体的に学習に取り組むよう指導し、次回に向けて継続的に指導することとした。

Ⅲ 研究の仮説

思考力・判断力・表現力等を高めるためには、教育活動のあらゆる場面を通じて、学校全体で、指導に関する検証改善サイクルを確立することが必要である。携帯電話やインターネット等の普及により、子供達の人間関係の構築方法に変化が生じているため、対面でのコミュニケーションを取り、自分の言葉で表現することを不得意としている。また、高等学校の授業の現状として、講義型のいわゆるインプットの授業が多く、小・中学校で多く行われている課題解決学習が系統的に行われていないことが多いため、言語活動が十分に行われていないと考え、次のように、仮

説を立てた。

- 1 各授業の指導目標を達成するために、プレゼンテーションにより説明することで、生徒自身の気づきや、発見さらには、肯定感や達成感の経験を通して、指導目標を達成させることができる。
- 2 学校全体として、学校の実状に応じた指導体制を作り、指導評価を行うことで、言語活動の充実が図られる。

Ⅳ 研究の方法

1 研究の方法

研究仮説の検証に向けて、生徒にプレゼンテーションの実施を通して、指導目標の達成に関わる実践的研究を行う。

仮説を検証する具体的方策は、部員が各学校で行う実践事例・学習指導案などを持ち寄り、月例会での討議や授業見学などを行った。仮説の検証の観点は以下の通りである。

- ①プレゼンテーションを行う際の「情報の取捨選択・分析・考察」をまとめるワークシートを使用し、自分の考えを整理し構築できるよう促す。
- ②プレゼンテーションの活動を通して、自分の意見を表現し、他者の意見を理解するなど他者とのコミュニケーションを積極的に行う。
- ③プレゼンテーションの実施後に、授業者が作成した評価シートをもとに、生徒同士が相互評価を行い、相手に自らの考えを伝えるための必要事項について振り返りを行うことで、生徒が自らの課題を見付けさせ、次の教育活動につなげる。

2 具体的方策

(1) 指導事項

プレゼンテーションの手法により、思考力・判断力・表現力等を高める自己評価や相互評価を取り入れた。平成 24 年の文部科学省言語活動の充実に関する指導事例集には「高等学校の言語活動の指導の在り方と留意点として、事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること。事実等を解釈し説明するとともに、自分の考えをもつこと、さらにお互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること。」「コミュニケーションや感性・情緒に関することでは、互いの存在についての理解を深め、尊重すること。」とある。これらを踏まえ、実践事例 1～3 では自己評価を行うとともに、発表の際に工夫すべき点を見いだすための相互評価を効果的に取り入れた。

(2) 教材

検証授業を行うに当たり、それぞれの事例にあわせて生徒が自己評価と相互評価が可能なワークシートなどを作成し、生徒が効果的に学習できるよう工夫をした。

(3) 方法 1（提示）

プレゼンテーション等の発表にあたり、評価の観点を示し、言語活動を通して思考力・判断力・表現力等を育むことを提示する。生徒は発表の目的を意識し、具体的な学習へとつなげた。

(4) 方法 2（生徒間の交流）

生徒のプレゼンテーションの発表に対して、他の生徒は聞くだけではなく、相互評価や質問

などを行うことにより、自分の考え方と他者の考え方の違いを発見し、コミュニケーションを通して相手を尊重する意識をもたせ、生徒の言語活動が充実するよう取り組んだ。

(5) 方法3（学習の振り返り）

教育活動に対して、ワークシート、評価シートやアンケートの記述内容から相互評価における内容と自己評価の内容を比較し、その違いから生徒の気づきや、達成感を読み取り、指導を継続した。

V 研究の内容

1 研究構想

全体テーマ **「思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善」**

高校部会テーマ **「思考力・判断力・表現力等を育むための指導と評価」**

現状と課題（生徒の思考力・判断力・表現力等についての現状を分析し、課題を抽出する）

【現状】

- ①携帯電話、インターネット等の普及でネットツールに頼り、人間関係の構築方法に変化が生じ、対面でコミュニケーションを取り自分の言葉で表現することを不得意としている。
- ②講義型のいわゆるインプットの授業が多く、小・中学校で多く行われている課題解決学習が系統的に行われていない。

【課題】

- ①他者と協働しながら、たくましく生きていく力を育むために必要な資質・能力をどう捉えるか。
- ②主体的に取り組むための意欲や、他者と協働するためにコミュニケーション能力をどのように育むか。

教育課題部会主題

言語活動の充実に向けた教育活動の工夫

仮 説

- ・各授業の指導目標を達成するために、プレゼンテーションにより説明することで生徒自身の気づきや発見さらには、肯定感や達成感の経験を通して、指導目標を達成することができる。
- ・学校全体として、学校の実状に応じた指導体制を作り、指導評価を行うことで、言語活動の充実が図られる。

具体的方策

- ・プレゼンテーションの手法により、思考力・判断力・表現力等を高める自己評価や相互評価を取り入れる。
- ・実践事例1から実践事例3において、自己評価を行うとともに、発表の際に工夫すべき点を見出すための相互評価を効果的に取り入れる。

評価・検証

- ・アンケートの記述内容から相互評価における内容と自己評価の内容を比較し、その違いから生徒の気づきや、達成感を読み取り指導目標が達成できたか検証する。
- ・指導を継続していく中で、適切に指導評価を行い、言語活動の充実が図ることができたか検証する。

実践事例 1

(1) 教科名	芸術	科目名	美術Ⅱ	学年	4 学年（14 名）
---------	----	-----	-----	----	------------

1 題材名、使用教材

(1) 題材名

「私の椅子」

(2) 使用教材

ア 材料・用具（授業者が用意するもの）

・ワークシート（授業のまとめ・プレゼンテーション）

・参考作品

柳宗理「バタフライスツール」、マルセル・ブロイヤー「ワシリーチェア」

sparco 社製自動車用スポーツシート、無印良品「体にフィットするソファ」

VARIER 社製「バランスチェア」

イ 学習環境

・ICT機器（プロジェクタ、スクリーン、PC）を用いてのスライド映像

2 題材の指導目標

- ・感性を働かせ、デザインされた椅子の良さや美しさを感じ取る。
- ・デザインや工芸の歴史や概念について、椅子を通して理解する。
- ・プレゼンテーションを行うことにより、思考力・判断力・表現力等を高める。

3 題材の評価規準

ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想・構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
①日常生活で使われる道具がもつ、美について、興味・関心をもっている。	①たくさんの椅子の中から、自分なりの考えをもって、気に入った椅子を選ぶことができる。	①プレゼンテーションにおいて、効果的に自分の考えを伝えられるように、資料を準備したり、工夫しようとしている。	①デザインされた椅子の良さや美しさを感じ取ることができる。
②デザインや工芸の概念やそれらが生まれるまでの歴史について、興味・関心をもっている。	②プレゼンテーションにおいて、自分が気に入った椅子を選ぶまでの過程を説明することができる。		②デザインや工芸の歴史や概念について理解し、身近にあるデザインされたものに対して、新しい視点をもつことができる。
			③プレゼンテーションにおいて、話し手の言葉を理解したり、考えを尊重したりすることができる。

4 題材の指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準（評価方法など）
		関	発	創	鑑	
第一時（本時）	・ ICT 機器による鑑賞をする。 ・ 椅子の歴史と人間の生活について学ぶ。 ・ アーツアンドクラフツ運動について学ぶ。 ・ バウハウスとデザインについて学ぶ。 ・ 授業のまとめをワークシートに記入する。	●			●	関 デザインや工芸の歴史や用の美について、興味・関心を持っている。（観察・ワークシート） 鑑 デザインされた椅子の良さや美しさを感じ取ることができる。（観察・発言・ワークシート）
第二時	・ 説明があった椅子に、実際に座りながら、質感や座り心地を確かめる。 ・ 学校内や普段の生活の中で使用されているさまざまな椅子を観察する。 ・ 自分のお気に入りの椅子について考えワークシートに記入する。 ・ 次回までに、お気に入りの椅子の資料や写真を準備する。	●	●		●	関 デザインや工芸の歴史や用の美について、興味・関心を持っている。（観察・ワークシート） 発 自分なりの考えをもって、気に入った椅子を選ぶことができる。（ワークシート） 鑑 デザインされた椅子の良さや美しさを感じ取ることができる。（観察・発言・ワークシート）
第三時	・ 自分のお気に入りの椅子について一人一分を目安にプレゼンテーションを行う。 ・ 他者のプレゼンテーションから自分が気付かなかった点を学ぶ ・ プレゼンテーションについてのまとめをワークシートに記入する。	●	●	●	●	関 視聴覚教材を見ながら、積極的に効果的な表現方法を学ぼうとしている。（観察） 発 自分が気に入った椅子を選ぶまでの過程を説明することができる。（発表・ワークシート） 創 効果的に伝えられるように、資料を準備したり、工夫しようとしている。（発表・ワークシート） 鑑 話し手の言葉を理解したり、考えを尊重したりすることができる。

5 本時（全3時間中の3時間目）

（1）本時の目標

- ア 声の大きさ、視線、具体性、根拠等に留意して発表することができる。
- イ 他者の発表を五つの観点で評価し、そこから発表における工夫（良かった点）を見出すことができる。

(2) 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5分	・本時のプレゼンテーションの進め方を確認する。 ・授業者のプレゼンテーションを見て、ICT機器の使い方を確認する。	・本時のプレゼンテーションの進め方を説明する。 ・プレゼンテーションにおける資料は実物投影機とプロジェクタによって、教室前に映し出す。	ア①(観察)
展開	35分	・自分のお気に入りの椅子について一人一分を目安にプレゼンテーションを行う。 ・他者のプレゼンテーションから自分が気付かなかった点を学ぶ	・準備ができている生徒から順番にプレゼンテーションを行うように指示する。 ・前回の授業を休んだり、理由があってプレゼンテーションができない生徒は、鑑賞をするように指導する。	ア①(観察・発表)
まとめ	5分	・プレゼンテーションについてのまとめをワークシートに記入する。	・プレゼンテーションについてのまとめをワークシートに記入させる。	エ①②③ (観察・ワークシート)

6 検証

(1) 生徒観

定時制課程4学年対象の選択科目の美術Ⅱの受講生は、進学や就職を控えており、話す相手に自分の考えを伝えることの大切さを理解していたため、授業でプレゼンテーションを扱うことについて、前向きな姿勢の生徒が多かった。しかし、人前に出て話をすることに対し、極端に苦手意識や嫌悪感を示す生徒も少なからずおり、授業への意欲と実際の行動が伴わない様子が見られた。

生徒にとって初めてのプレゼンテーションということで、方法や技術的な観点での指導や評価よりも、やってみて気が付いたことに目を向けられるような問いかけを、ワークシートを通して行った。

(2) ワークシートの生徒記述について

①他者のプレゼンテーションについて、良かったところを記入する。(自由記述)

ア 話し方が分りやすかった

イ その人の気持ちに共感できた。

ウ 声が大きくハキハキしていて聞き取りやすかった。

エ 聞いていて面白かった。

②他者のプレゼンテーションについて、大切だと思ったことを選択する。(複数選択可)

A 自分の考えがまとまっているか……………4人

B 声の大きさやわかりやすい言葉づかい……7人

C 見る人への視線や、話すときの姿勢…… 5 人

D 何とかして伝えようとする気持ち…… 5 人

③自分でプレゼンテーションをしてみて、難しかったことを記入する。(自由記述)

ア 椅子の機能について説明すること。

イ 写真とか資料をちゃんと準備すれば良かった。

ウ 話のまとめ方が難しかった。

エ 現物の椅子に座ってもらわないと、共感してもらえない。

④自分のプレゼンテーションは、うまく伝えられたかどうか選択する。(一つ選択)

A うまく伝えられたと思う…… 1 人

B まあまあ、伝わったと思う…… 2 人

C すこし伝わったと思う…… 0 人

D まったく伝わらなかったと思う…… 1 人

(3) ワークシートの生徒の記述についての考察

- ・①と③に共通して、聞いてくれている相手の共感を得ることがあげられており、言葉で説明して内容が伝わるだけではなく、伝える側の熱意や気持ちの重要性に生徒は気付いていた。(関心・意欲・表現)
- ・③で話のまとめかたが難しかったと答える生徒がおり、自分の考えを整理することの重要性に気付いていた。また、事前に資料や現物を準備して、効果的な伝え方について考えている様子が見受けられた。(思考・判断・表現)
- ・①と②に共通して、話し方(声の大きさや言葉づかい)が自分の考えを伝えるために、必要なことに生徒は気付いていた。(表現)
- ・①の聞いていて面白かったという記述は、単なる感想ではなく、聞いてくれる相手の興味を引き出すような工夫が必要だと生徒が気付いたと思われる。(思考・判断・表現)

(4) 検証結果

- ①椅子に座ったままで受動的に話を聞くのではなく、プレゼンテーションは能動的かつ主体的に相手に自分の考えを伝えていく作業である。また、プレゼンテーションは非常にクリエイティブな表現活動であり、言語活動を充実させるだけではなく、特に美術におけるデザインの表現力を高めることも期待できる。
- ②生徒は情報を取捨選択し、自分の考えを整理し、いかにして相手に正確に、かつ効率的に伝えるのかを考えることは、コミュニケーション能力を高めることにつながった。
- ③プレゼンテーションのような体験を伴う活動は、生徒によって感想は様々であるが、強く印象に残る。失敗の経験から学び、成功の経験から自信を持つ機会を、より多く与えるために学校における教育活動においてプレゼンテーションを取り入れると良い。
- ④プレゼンテーションの授業で生徒は多くの「気付き」を得ることができた。さらに継続して指導することによりプレゼンテーションを通して「思考力・判断力・表現力等」が高められることが期待できる。

7 成果と課題

- (1) 今回の実践事例の中では、「B鑑賞」の授業としてプレゼンテーションを行ったため、授業で制作活動を行わなかった。今後は「A表現」の授業で制作した作品をそれぞれがプレゼンテーションを行うことで、継続的なプレゼンテーションの指導を続けていく。
- (2) コミュニケーションをとることに苦手意識をもつ生徒でも、授業に参加しやすい雰囲気を作ることや、プレゼンテーションができなかった生徒はワークシートをもとに評価を行うことができるように準備を行う必要があった。
- (3) お気に入りの椅子を選び、プレゼンテーションの準備の時間をもっと多くとることで、思考力・判断力を高める機会を増やすことができる。今後は授業計画を見直し、プレゼンテーションの準備の時間を有効に使うようにする。
- (4) 題材の中で、グループで話し合う機会を設けることで、自分の考えを広げたり、深めたりすることや、コミュニケーション能力を高めることが期待できるので、今後は共同制作の題材も開発していく。

8 資料

- (1) 第1時 ICT 機器を用いた鑑賞の授業の様子



- 第2時 説明があった椅子に生徒が座る様子



- ①ICT 機器と板書を併用して用いることで、写真等の多くの資料を効果的に説明することができた。
- ②見たり聞いたりするだけではなく、本物に触れる機会を設けることで、生徒の興味・関心を引き出すことができた。

第3時 自分のお気に入りの椅子について、プレゼンテーションをする様子

- ①実物投影機を用いると、見せたい資料が素早く投影されるので、生徒でも扱いやすい。
- ②携帯電話に映した写真を間接的に投影することで、データの移動の必要がない。

(2) 授業に用いたワークシート

私の椅子

～椅子から学ぶデザインと工芸～

●授業の中身の整理

①人間はなぜ椅子に座るようになったの？

2本足で立つのでつかれるから

②「社長の椅子をねらう」ってどういう意味？

その地位をねらう

③世の中に美しくないものばかり、大量に生産されることを恐れて、始まった運動とは？

アーツ・アンド・クラフツ運動

④デザインと工芸の違いってどこにあるの？

生産性の違い

●プレゼンテーションについて

①一番気に入ったプレゼンテーションは、どんなところが良かったのか説明してください。

映画館の。休みたいくなるけどふかふかしてる。
一番わかりやすいかな。

②他の人のプレゼンテーションについて、大切だと思ったことに○をつけましょう。(複数可)

☐ A 自分の考えがまとまっているか
☒ B 声の大きさやわかりやすい言葉づかい
☒ C 見る人への視線や、話すときの姿勢
☐ D 何とかして伝えようとする気持ち

●自分の作品をプレゼンテーションしてみて

①作品について、見る人に伝えることで難しかったことは？

その機能伝えること。

②作品について、見る人にうまく伝えることができましたか？ (○で囲むこと)

☐ A うまく伝えられたと思う
☒ B まあまあ、伝わったと思う
☐ C すこし伝わったと思う
☐ D まったく伝わらなかったと思う

実践事例Ⅱ

教科名	国語	科目名	学校設定科目 (児童文学)	学年	2 学年 (23 名)
-----	----	-----	------------------	----	-------------

1 題材名、使用教材（教科書、副教材）

- (1) 題材名 「子供の読み聞かせにふさわしい本を選び、プレゼンテーションをしよう」
- (2) 使用教材 ・ワークシート
・参考資料
「新生児から小学校低学年までの発達」(『家庭総合』大修館)
あだち絵本ガイド (足立区図書館発行)

2 題材の指導目標

- (1) 子供の発達段階や興味・関心を考慮して、絵本を選択できる。
- (2) 絵本を読むことを通して、子供の想像力と思考力を育てる、人間関係を深める、言葉の力や聞くことを楽しむ、読書への素地作りができることが理解できる。
- (3) 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現できる。
- (4) 他者の意見を聞き、自己の考えを豊かにすることができる。

3 題材の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 話すこと・聞くこと	ウ 書くこと	エ 知識・理解
①子供の発達段階や興味・関心を考慮して、絵本を選択しようとしている。 ②絵本を読むことで、子供に身に付く力を理解しようとしている。 ③目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現しようとしている。 ④他者の意見を聞き、自己の考えを豊かにできている。	①目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現できる。 ②他者の意見にしっかりと耳を傾け内容を理解し、自己の考えを豊かにすることができる。	①自分が選んだ本に関して、子どもの発達段階に合わせ、推薦する理由を自分の言葉でまとめることができる。	①絵本の選択には、子供の発達段階や興味・関心を考慮することが理解できる。 ②絵本を読むことを通して、子供の想像力と思考力を育てる、人間関係を深める、言葉の力や聞くことを楽しむ、読書への素地作りができることが理解できる。

※国語の学校設定科目の授業内で実施したため、評価の観点は国語に準じた。

4 題材の指導と評価の計画（6時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	話 聞	書	知	
第一時 (本時)	・自分で対象の子どもを設定し、その子どもに読み聞かせしたいと思う本を図書室で一冊選ぶ。 ・なぜその絵本を選んだのか、話し合いをするために自分の考えをワークシートにまとめる	●		●	●	☐知自分で対象を設定し、その対象に合った絵本が選択できている。 (ワークシート提出) ☐関積極的に絵本を探し、自分の考えをまとめようとしている。(観察)
第二時 (本時)	・グループ（4 or 5人）で話し合い、子どもに読み聞かせしたい本を一冊選び、その理由を挙げる。 ・その本を読み聞かせることで、子どもに身に付く力を話し合う。	●	●		●	☐話課題に合った自分の考えを発言できている。(観察) ☐聞的確に他者の意見を聞くことができる。(プリント) ☐関積極的に他者の意見を聞き、自分の意見を伝えようとしている。 ☐関他者の意見を聞き、自己を豊かにすることができる。(プリント) ☐知お話の効用を考え、理解できている。(プリント)
第三時	・プレゼンテーションとは何か学習する。 ・効果的なプレゼンテーションの仕方について視聴覚教材を見ながら学習する。	●	●		●	☐知効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか理解できている。(プリント) ☐関視聴覚教材を見ながら、積極的に効果的な表現方法を学ぼうとしている。(観察)
第四時	・グループ（3 or 4人）で話し合い、「子どもに読み聞かせしたい本」についてプレゼンテーションの構想を練る。 (時間があれば) ・グループで発表の練習をする。	●	●		●	☐話課題に合った自分の考えを発言できている。(観察) ☐聞的確に他者の意見を聞くことができる。(プリント) ☐関積極的に他者の意見を聞き、自分の意見を伝えようとしている。 ☐関他者の意見を聞き、自己を豊かにすることができる。(プリント) ☐知話の内容を考え、理解できている。(プリント)

第五時	・ 1 グループ（5分）で6グループの発表をする ・ 他者の発表を評価シートにメモを取りながら聞く。 ・ 発表の合間や残り時間で自己評価シートを記入する。	●	●		話 声の大きさ、視線、具体性、根拠に留意して発表することができる。（観察） 話 他者を意識して、発表を工夫することができる。（観察） 聞 話し手の意図を理解し、表現の工夫に気付くことができる。（評価シート） 関 評価シートを記入しながら、授業に積極的に参加している。（評価シート）
第六時	・ 全体で相互評価を行う。 ・ 幼児に合う絵本を選ぶときに、留意する点について再度確認する。	●	●	●	関 積極的に自分の意見を発表することができる。（観察） 知 絵本には、多種多様なものがあるが、対象を設定し、一人一人の興味・関心に合った選択が必要であることが理解できる。（ワークシート）

5 本時（全6時間目の1・2時間目）

（1）本時の目標

- ア 子供の発達段階や興味・関心を考慮して、絵本を選択できる。
- イ 絵本を読むことを通して、子供の想像力と思考力を育てる、人間関係を深める、言葉の力や聞くことを楽しむ、読書への素地作りができることが理解できる。
- ウ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現できる。
- エ 他者の意見を聞き、自己の考えを豊かにすることができる。

（2）本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5分	①本時の流れ・目当てを理解する。 ②ワークシートの記入の仕方について理解する。	以下の3点について説明する。 （1）本時の流れ・目当て （2）ワークシートの記入の仕方 （3）評価の基準	ア（観察）

展開	85分	①図書室にある絵本も参考にしながら、設定した子供に薦めたい絵本を一冊選ぶ。 ②なぜその絵本を選んだのか理由を考え、ワークシートに記入する。 ③グループで話し合い、設定を決めて読み聞かせにふさわしい一冊を選ぶ。	・生徒の様子を見ながら、適宜声かけをする。 ・ワークシートに記入の際、ワークシートにある絵本を読む観点に注目させながら記入させる。 ・話し合いが停滞しているグループには、ワークシートに注目するよう適宜声かけをする。	ア・ウ・エ (観察、ワークシート)
まとめ	5分	①ワークシートの記入について確認する。 ②次回以降の流れについて確認する。	・ワークシートが過不足なく書けているかどうか確認させる。 ・本時の感想を問いかける。	

6 検証

(1) 生徒観

全日制課程2学年の学校選択科目の授業で、検証授業を行った。グループワークやプレゼンテーションに慣れていない生徒が多いが、部活動のミーティングなど授業外での生徒同士のコミュニケーションの機会がある生徒もいる中で、そのような生徒が中心となりグループワークを進めていた。

自分たちに必要な力がコミュニケーション能力だと考えている生徒が多く、前向きに授業に取り組もうとするが、どのように話し合いを進めていいか最初は戸惑う場面もあった。しかし、助言は最低限にとどめ、ワークシートに注目させ、生徒たちに自主的にグループワークを行うよう指導した。

生徒にとって初めてのグループワーク・プレゼンテーションということで、自分自身の考えをもった上で、前向きに話し合いやプレゼンテーションを行うという姿勢を身に付けるようなワークシートを作成して行った。

(2) ワークシートの生徒記述について

ア 子供に身に付けたい力は何か。

半数の生徒が「想像力」を挙げている。他には「人の話を聞く力」「喜怒哀楽を大切にする力」などが挙げられている。

イ 社会に出て必要な力は、どのような力か。

ほぼ全ての生徒が「コミュニケーション能力」を挙げている。他には「行動力」「考える力」などが挙げられている。

ウ 今高校生の自分には、どのような力が足りないか。

半数の生徒が「コミュニケーション能力」を挙げている。もう半数が「行動力」を挙げたほか、「考える力」も少数であるが挙げられている。

(3) 本時の振り返り

ア 積極的に参加できていたか	YES・・・21人	NO・・・1人
イ 子供の発達段階について理解できたか	YES・・・21人	NO・・・1人

ウ 相手の言いたいことを理解できたか YES・・・22人 NO・・・0人

エ 自分の言いたいことを整理して、相手に分りやすく伝えられたか

YES・・・17人 NO・・・5人

オ 話合いの中で、話の仕方や聞き方、進め方が良かったと思う人を挙げ、その理由を書く

理由 ・話合いの中心となってくれたから

・一番初めに話を切り出してくれたから

・一人一人が自分の本をわかりやすく説明していたから

・声が大きいから

・みんな同じくらい発言していたから

・自分の意見をはっきり言えたから

(4) 生徒の記述についての考察

- ・生徒の「子供に身に付けさせたい力」の記述から、幼児にとって想像力や思考力を育てる、人間関係を深める、言葉の力や聞くことを楽しむことの重要性を理解していることが読み取れる。感想の中の、「子供に読ませたい」や「楽しそう」「楽しかった」などから、生徒自身も他者による絵本の紹介で想像力を働かせたり、楽しんだりできたことがうかがえる。(知識・理解)
- ・生徒記述から「社会に出て必要な力・高校生の自分に足りない力は何か」を生徒自身が進学や就職に向けてコミュニケーション能力の必要性を感じ、その能力を高める必要があると感じている。そのため、授業にも積極的に取り組む姿勢が見られたことが、良くできたという自己評価に結びついていた。(関心・意欲・態度)
- ・「子供の発達段階について理解できた」という自己評価からもうかがえるように、課題に応じて自分で対象(読み手・聞き手)を設定し、収集した様々な情報を分析、整理してワークシートを作成し、生徒は自分の考えを効果的に表現しようとしていた。その結果、絵本には多種多様なものがあり、一人一人の興味・関心や発達段階に応じた選択が必要なことが、「本を選ぶことが難しい」や「絵本にも発達段階があることが分かる」のような感想から推察される。(知識・理解)(書くこと)
- ・自己評価で、全員が「相手の言いたいことを理解できた」を選択しているが、「相手に分りやすく伝えられたか」の質問については、何人かの生徒が出来なかったと選択している。このことから、生徒たちは、自分の考えを整理することの難しさ、重要性に気付いていたといえる。(話すこと・聞くこと)
- ・他者評価の「声が大きい」「分りやすく説明していた」「まとめるのが上手だった」「みんな同じくらい発言していた」「説明に対して色々言っていた」などの生徒記述より、声の大きさや自分の話をまとめて話すことなど、生徒は聞き手を意識して分りやすく話をすることの重要性に気付いている。また、司会を立てたり質問し合ったり、偏りなく班のメンバーの意見を聞いたりと話合いの工夫も生徒たち自身で考慮出来ていた。(話すこと・聞くこと)

7 成果と課題

- (1) プレゼンテーションをするためには、課題に応じて自分で対象（読み手・聞き手）を設定し、収集した様々な情報を分析、整理してワークシートを作成し、自分の考えを効果的に表現する必要があるので、プレゼンテーションを継続的に行うことで思考力・判断力・表現力等を高めることが期待できる。
- (2) グループディスカッションでは効果的な表現方法について深く学習するには至らなかったが、プレゼンテーションでは聞き手を想定し、いかに効果的に表現するかを生徒に考えさせ、話す力を高めるよう指導をしたい。その結果、生徒がグループディスカッションで得たよりも高い達成感を得て、自己肯定感を高め、円滑なコミュニケーションが図れるようになると思われる。

授業の様子

○授業の説明、導入の様子



○絵本を選んでいる様子



○グループディスカッションの様子



○絵本の読み聞かせの練習



8 資料

合同読み聞かせに使う絵本を決めよう

4人(3人)の優秀な保育士さんとグループを作りましょう。
 今度は、グループ毎に合同読み聞かせ会を開きます。
 4人のベストオブ読み聞かせ本を持ち寄って、グループで1冊に絞りましょう。

グループメンバー 横山 山田 山田 山田

・グループで決めた絵本 【オニじゃないはおにぎりだよ】
 ・その絵本で、何歳の子どもに読み聞かせしますか? (5) 歳
 ・(5) 歳の子はどんな発達段階で、どんな子どもたちですか?

(5) 歳の発達段階 だいたいのひらがなが読める	どんな子どもたちか? (性格・興味・家族など) オニがこわいと思っている子
-------------------------------	--

・その絵本を読み聞かせることで、子どもにとってどんな良いことがあるか考えましょう。
 (5点以上)

☐ 外見で判断してはいけず ☐ 親切にすると自分にも返ってくる ☐ オニのあてにかな ☐ 諦めないところ ☐ 子どもに恐怖を与えない絵
--

★ 今日の振り返り

① 積極的に参加できましたか (YES ・ NO)
 ② 子どもの発達段階について考えることができましたか (YES ・ NO)
 ③ 相手の話をきちんと理解することができましたか (YES ・ NO)
 ④ 自分の言いたいことを整理して、相手にわかりやすく伝えることができましたか (YES ・ NO)
 ⑤ 話し合いの参加の中で、話の仕方や聞き方、進め方が良かったと思う人を挙げましょう。
 また、その理由を書きましょう。
 誰 (山田)
 理由 (一番最初に話をきり出してきてくれたから)

⑥ 今日の感想
 始めは固まっていたけど、1人の人が話をきり出してきて、自分の意見を言えたり、皆の意見をきけてよかった。

実践事例Ⅲ

特別活動 学校行事 「ブックトーク」	対象学年	2学年 198名
--------------------	------	----------

1 行事名、使用教材

(1) 行事名 ブックトーク

(2) 使用教材 ワークシート4種

(発表メモ、相互評価シート、自己評価シート、振り返りシート)

ブックトークとは、自分で読んで「面白い、他人に薦めたい」と思った本を、一人3分程度で紹介する取り組みである。学校全体で、特別活動の学校行事として取り組んでいる。

2 指導目標

- (1) 本の紹介を通して、自分の考えを文章化する能力や、それを言葉で伝える能力を養う。
- (2) 他の生徒の発表を聞くことで、より効果的な発表方法について学ぶ。
- (3) 他の生徒の発表を聞くことで、本への興味・関心を高める。

3 題材の評価規準

ア 意欲・関心・態度	イ 話すこと・聞くこと	ウ 書くこと	エ 知識・理解
①読みたい本を探し、熟読して、メモを作成する。 ②発表メモ等の準備をはじめ、意欲を持ってブックトークに臨んでいる。	①声の大きさ、視線、具体性、根拠等に留意して発表することができる。 ②伝えたいことのポイントを絞って、分かりやすく発表することができる。 ③他者の発表を聞き、よい点を見つけ、それを相互評価シートに記入することができる。	①自分が読んだ本に関して、推薦する理由やよかった点、自分の考えの変化等を自分の言葉でまとめることができる。	①他者の発表を聞き、効果的な発表の方法や自己の課題を明確にすることができる。

※ 国語の授業内で実施したため、評価の観点は国語に準じた。

4 題材の指導と評価の計画（6時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	話聞	書	知	
事前学習	・夏季休業中の課題として以下の2点に取り組む。 ・発表する本の選定をする。 ・発表メモを作成する。			●		[書] 本の内容や自分の考えを整理して、発表メモを作成することができる。 (ワークシート)
第一時	・ブックトークの発表メモを提出し、それぞれ添削・アドバイスを受ける。 ・実際に声を出して練習する。	●				[関] 発表に向けて声を出して練習し、時間を計って練習したりしている。(観察)
第二時(本時)～第五時	・1人3分程度でブックトークを行う。 ・他者の発表を相互評価シートにメモを取りながら聞く。 ・発表を終えた者は、自己評価シートを記入し提出する。	●	●			[関] 発表者、聴衆ともに、意欲的に取り組んでいる。(観察) [話] 声の大きさ、視線、具体性、根拠等に留意して発表している。(観察) [話] ポイントを絞って分かりやすく発表している。(観察) [聞] 他者のよい点を見つけながら、評価シートを記入している。(ワークシート)

第六時	・自己評価と他者評価を比較し振り返りシートを記入することで、効果的な発表方法と今後の自己の課題を明確にする。	●		●	関 自己評価シートと相互評価シートを比較して、振り返りシートに記入している。(観察・ワークシート) 知 他者評価を踏まえて、効果的な発表方法と自己の課題に気付くことができる。(ワークシート)
-----	--	---	--	---	---

5 本時（全6時間中の2時間目）

（1）本時の目標

ア 声の大きさ、視線、具体性、根拠等に留意して発表することができる。

イ 他者の発表を5つの観点で評価し、そこから発表における工夫（よかった点）を見出すことができる。

（2）本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	10分	- 評価シート、自己評価シートの記入方法を理解する。 - ブックトークの手順を理解する。	ブックトークを始める前に以下の3点について説明する。 (1) 評価シートの記入方法 (2) 評価の観点 (3) ブックトークの手順	ア（観察）
展開	37分	①くじ引きで発表者を決める。 ②黒板に「作品名」「著者」を板書してから1人3分程度で発表する。 ③評価を付ける。 ※①～③の繰り返し	1人目の発表者は教員がくじを引き決定する。 - タイマーで3分計り、終了30秒前で一声かける。 3分を超えても止めることはしないが、まとめに入るよう促す。 - 評価はコメントも含めすべて記入するよう声かけする。	ア（観察） イ（観察、ワークシート）
まとめ	3分	- 評価シートを完成させる。 - 発表を終えた者は、自己評価シートの記入をし、提出する。	- 本時に発表を終えた者の評価が不足なく記入されているか再度確認させる。 - 自己評価の記入方法と提出方法を説明する。	

6 事例の検証

（1）生徒観

全日制課程2学年の現代文の授業で検証を行った。本校は言語能力推進校であり、国語科、英語科、ビジネス科の授業を中心に、自分の考えを文章にまとめることや、それを他者に対して発信するという取り組みに力を入れている。また、授業の枠を超えて、ブックトークやレシ

テーションコンテスト（英語朗読大会）を学校行事の一つとして位置付け取り組ませるとともに、弁論大会や書評合戦等の校外行事にも積極的に参加させているという現状がある。そのため、生徒の多くはグループワークやプレゼンテーションに抵抗感はなく、意欲的かつ楽しそうに取り組む姿勢が見える。

また、本校は大半の生徒が推薦入試制度を活用し進学することを目標としている。今回の検証授業は、「人前で発表することに慣れる」という素地があることを前提に、「より効果的なプレゼンテーションの方法を学び、3年次の進路活動につなげる」ことに重きを置き、実施した。

（２）ワークシートの生徒記述について

〈振り返りシートの分析〉

①他者評価で評価が高かった項目は何ですか。（複数回答）

- ア 声（はっきりと聞き取りやすい声か）・・・・・・・・・・・・・14人
- イ 視線（聞き手に視線が向いているか）・・・・・・・・・・・・・4人
- ウ 具体性（具体性があり、分かりやすかったか）・・・・・・・・・・・・・8人
- エ 根拠（なぜその本を推薦するのが明確だったか）・・・・・・・・・・・・・7人
- オ 興味・関心（発表を聞いてその本を読みたいと思ったか）・・・・・・4人

②他者評価で評価が低かった項目は何ですか。（複数回答）

- ア 声（はっきりと聞き取りやすい声か）・・・・・・・・・・・・・4人
- イ 視線（聞き手に視線が向いているか）・・・・・・・・・・・・・11人
- ウ 具体性（具体性があり、分かりやすかったか）・・・・・・・・・・・・・5人
- エ 根拠（なぜその本を推薦するのが明確だったか）・・・・・・・・・・・・・4人
- オ 興味・関心（発表を聞いてその本を読みたいと思ったか）・・・・・・9人

③発表の上手な人はどのようなところに工夫していたと思いますか。（自由記述）

- ア 発表の上手な人とそうでない人の大きな違いは、「読んでいるか」、「話しているか」という点だと思う。発表の上手な人は常に自分の言葉で話している印象があった。
- イ 内容に具体性があり、原稿ではなく視線を聞き手に向けていた。
- ウ 自分が伝えたい部分（その本のいいところ）を目立たせていた。
- エ 続きが気になるところであえて話を終わらせていた。
- オ みんなに問い掛けたり、相手の目を見ていたり、興味が湧くように発表していた。

④あなたの今後の発表における課題は何ですか。（自由記述）

- ア 事前準備をしっかりとすること。
- イ 自分の意見を自分の言葉で話すこと。
- ウ テーマを絞り、一つのことをしっかりと伝えること。
- エ 自分の言いたいことをまとめてから伝えること。
- オ まずは自分が本の内容をきちんと理解すること。

⑤ブックトークを終えて、あなたの考えはどのように変わりましたか。（自由記述）

- ア 前に出て話すことに抵抗がなくなった。ブックトークを通して「相手に伝えようとする気持ち」の大切さを知った。

- イ 「いかに相手に分かりやすく伝えるか」を考えることができたよい機会となった。
- ウ みんなのブックトークを聞いて、本に興味が湧いた。いつもは本なんて読まないが、読んでみたいと思える本がたくさんできた。その本に対する発表を聞くことによって自分の考え方が変わり、本はとてもよいものだったと思った。
- エ 人前で話すことはやはり難しく緊張したけれど、これは面接などで必ず活かせることなので自分の弱点（大きな声ではきはき話すこと）を克服しようと思った。
- オ みんなの自分に対する評価を見て自分のだめな部分が具体的に分かり、それを今後直さなければならないと思った。

(3) 生徒の記述についての考察

- ア 他者評価を分析することで、そこから④自己の課題を明確にすることができていた。(知識・理解)
- イ 「発表の上手な人とそうでない人の大きな違いは、読んでいるか、話しているかという点だと思う。発表の上手な人は常に自分の言葉で話している印象があった」という記述より、プレゼンテーションとは言葉を「読む」のではなく、「話す」ものであると気付いていた。(知識・理解)
- ウ 「内容に具体性があり、原稿ではなく視線を聞き手に向けていた」「メモをあまり見ないで話していた」「みんなに問い掛けたり、相手の目を見ていたり、興味が湧くように発表していた」という記述より、効果的に「話す」には、話し手と聞き手の双方で上手にコミュニケーションを取りながらプレゼンテーションを行うことが大切であり、そのためには視線や問いかけが重要であると気付いていた。(話すこと・知識・理解)
- エ 「本の感想だけでなく、自分の体験や知識も含めて発表していた」「自分が伝えたい部分を目立たせていた」「続きが気になるところであえて話を終わらせていた」という記述より、聞き手にその本を読みたいと思わせるためには、あらすじを話すだけではなく、そこに自分の体験を交えることが重要であると気付いていた。また、ポイントを絞り、伝えたい部分を強調することや、あえて重要な部分は言わずに、聞き手の興味をひく話し方など、プレゼンテーションにおける様々な工夫に気付いた。(話すこと・知識・理解)
- オ 「ブックトークを通して、相手に伝えようとする気持ちの大切さを知った」「いかに相手に分かりやすく伝えるかを考えることができたよい機会となった」という記述より、プレゼンテーションには「相手に伝えようとする気持ち」と「分かりやすく伝えるための工夫」が必要であることに気付いていた。(知識・理解)
- カ 「みんなのブックトークを聞いて、本に興味が湧いた」という記述より、他者の発表を聞くことで生徒の読書に対する考え方の変化が読み取れる。ブックトークが生徒の読書への扉を開く一つのきっかけになった。(関心・意欲・態度)
- キ 「面接などで必ず活かせることなので自分の弱点（大きな声ではきはき話すこと）を克服しようと思った」「みんなの自分に対する評価を見て自分のだめな部分が具体的に分かり、それを今後直さなければならないと思った」「事前準備が大事だった」という記述より、自己の課題を明確にできている。同時にそれを今後に活かそうという意欲も読み取れた。(知識・理解・関心・意欲・態度)

7 成果と課題

- (1) 生徒はブックトークを実施するときは、本の選定、根拠を裏付ける具体性の提示など、自分の考えを整理し構築するという作業を行っている。自分の考えを整理、構築するには言葉の取捨選択が必要不可欠であり、それは思考力・判断力・表現力を高めることに直結する。
- (2) 自己のプレゼンテーションを自己評価、他者評価の双方の点から比較し、分析することで、課題を明確にするとともに、より効果的なプレゼンテーションの方法に気付くことができた。これは先に控える進路活動や就職後に大いに発揮できるものとする。

8 資料

(1) ブックトークの様子



(2) ワークシート

〈自己評価シート〉

ブックトーク 自己評価用紙

()年()組()番 氏名()

評価①	(A) 大きな声ではっきりと話すことができた。	1	5	2	1
評価②	(根拠) ノートばかりでなく、両手には図鑑を向けることができた。	4	3	2	1
評価③	(具体性) 本の内容や自分が好きな部分について具体的に話すことができた。	4	3	2	1
評価④	(根拠) なぜその本を推薦するのかを明確に話すことができた。	4	3	2	1
評価⑤	(興味・関心) 話し手とその本を読んでみたいと思わせるような工夫・発表ができた。	4	3	2	1

(準備)	しっかりと準備をした上でブックトークに臨むことができた。	はい	いいえ
(態度)	熱意や目標を持ってブックトークに臨むことができた。	はい	いいえ

ブックトークを終えて感じたこと、気づいたこと

話し手の準備ができていたことが、聞き手にも伝わりやすかった。話し手の準備ができていたことが、聞き手にも伝わりやすかった。話し手の準備ができていたことが、聞き手にも伝わりやすかった。

〈相互評価シート〉

ブックトーク 振り返りシート

()年()組()番 氏名()

- 1 他者評価で評価が高かった項目は何ですか。
声 根拠 具体性 根拠 興味・関心
- 2 他者評価で評価が低かった項目は何ですか。
声 根拠 具体性 根拠 興味・関心
- 3 発表の上手な人は、どのようなところに工夫していたと思いますか。
発表の上手な人は、どのようなところに工夫していたと思いますか。発表の上手な人は、どのようなところに工夫していたと思いますか。
- 4 あなたが今後の発表における課題はありますか？
根拠をより詳しくすること、そのために、資料と練習の重要性を考えた。
- 5 ブックトークを終えて、あなたの考えはどのように変わりましたか。(どんな習慣はことでもOK！)
話し手として、人の興味を引くための工夫が大切だと感じた。

VI 研究の成果

1 今回の実践事例

本研究では、授業や学校行事を通してプレゼンテーション等の活動を行い、アンケートの記述内容から相互評価における内容と自己評価の内容を比較した。その違いから生徒の気づきや達成感を読み取り、生徒が課題を把握し、情報の取捨選択・分析・考察ができるようになったか、また生徒の思考力・判断力・表現力等の伸びを実感していく過程を分析・検証した。

実践事例Ⅰでは、定時制課程4学年の選択科目美術Ⅱの授業として、「私の椅子」というプレゼンテーションを扱い検証授業、自己評価等を行った。ワークシートの生徒記述から伝える側の熱意や重要性、自分の考えを整理することの重要性、事前に資料や椅子の現物を準備して、効果的な伝え方について考えること等の気づきを読み取ることができた。結果として、生徒のコミュニケーション能力を高め、自信を持つ機会を与えることができ、思考力・判断力・表現力等を高めることができた。

実践事例Ⅱでは国語、児童文学の授業で子どもの読み聞かせにふさわしい本を選びプレゼンテーションをする授業、自己評価等を行った。ワークシートの生徒記述では、社会に出て必要な力、今の自分にはどのような力が足りないかで、コミュニケーション能力が挙げられ、その必要性や能力を高めることの必要性を認識させることができた。また、絵本の題材に応じて自分で対象を設定し、収集した情報を分析、整理してワークシートを作成し、自分の考えを効果的に表現しようとしたことが読み取ることができた。結果として、生徒が話し合うことの楽しさや難しさ、自分の考えを伝えられた時の達成感を得るなど、思考力・判断力・表現力等を高めることができた。

実践事例Ⅲでは、学校行事の「ブックトーク」として、本の紹介を通してプレゼンテーション能力や本への興味関心を高めることができた。また、ワークシートを使って自己評価を行った。ワークシートの生徒記述では、事前準備の必要性や、テーマを絞り、一つのことをしっかり伝えること、相手の興味を引くような具体的な発表をすること、などの気づきを読み取ることができた。結果として、生徒が人前で発表するという経験を通して自信をもたせ、相手に伝えることの難しさを認識し、自己の課題を明確にすることで、今後の学習活動に役立てることをできた。

本研究では、言語活動の充実、特にコミュニケーション能力等を育成するために、プレゼンテーションを取り入れた。思考力・判断力・表現力等を高めることを実証するため授業実践を行った。生徒が自らの課題を見つけ、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させて発表するなど、次の教育活動につなげていくため、自己評価や相互評価を取り入れた。その結果、実践事例では、生徒は多くの気づきを得ることができた。生徒の記述から、「みんなと話し合えてよかった」「始めは固まっていたけど、みんなの意見が聞けてよかった」など、コミュニケーション能力を高めるといふ仮説が実証された。実践事例を美術科、国語科、学校行事で行った。文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて取捨選択しまとめ、表現するなど、教育活動全体を通して研究することができた。

VII 今後の課題

1 授業計画

今回の研究で得た成果を、思考力・判断力・表現力等を育成するために、どのような言語活動を、どの場面で行うか、各教科・科目の指導計画に明確に位置付けることが求められる。今後は、学校行事や授業等に、どのように反映させていくのか課題である。実際の指導では、指導者だけではなく、生徒自身も言語活動について、その目的を意識しながら学習に取り組むことが重要になる。各教科・科目で授業の構成や進め方が改善され、主体的に取り組むことができるように工夫することが課題である。

2 コミュニケーション能力について

生徒の思考力・判断力・表現力等を育む観点から、基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語活動の充実が必要であり、そのために、コミュニケーション能力高めることが求められている。「互いの存在について理解を深め、尊重していくこと」「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを表現する」など、多様な生徒がいる中で、友人関係や対人関係を作ることそのものに恐怖を持っている場合、学校での行事や授業に参加することが難しくなる。指導者が作成した授業の雰囲気や、クラスの間関係に大きく左右されることも、十分踏まえた上で、学校全体で指導・評価を一体化させていくことが重要ではないかと考える。

3 評価の規準

本研究では生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるために、プレゼンテーション等で授業実践をおこない、検証した。美術科、国語科の学校設定科目、学校行事とあらゆる教育活動でも対応できるように場面を想定し、生徒の実態に合わせた目標を立て、ワークシートの作成から評価まで行った。今後は、学校全体として、①観点別学習状況の評価を実施し、きめの細かい学習指導と学習定着を図る。②評価の結果を生徒に適切にフィードバックし、指導の改善・充実を図る。など、指導に関する検証改善サイクルの確立をしていくことが課題である。

平成 26 年度 教育研究員名簿

高 等 学 校 ・ 教 育 課 題

学 校 名	課程	職名	氏名
都立足立高等学校	定時制	主任教諭	◎ 能澤 大輔
都立足立新田高等学校	全日制	教 諭	小川 樹里
都立大田桜台高等学校	全日制	教 諭	酒井 里沙
都立千早高等学校	全日制	教 諭	笠原 紀一

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 統括指導主事 守屋 文俊
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 課務担当係長 小高 潤子

平成 2 6 年度
教育研究員研究報告書

高等学校・教育課題

東京都教育委員会印刷物登録

（平成 2 6 年度第 1 8 6 号）
平成 2 7 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電 話 番 号 （ 0 3 ） 5 3 2 0 － 6 8 4 9
印 刷 会 社 正和商事株式会社